

読売新聞 きょう（1月9日）のイチ押し

1面・社会面 阪神大震災27年㊤ 避難計画に「福祉」の力

今月17日に阪神大震災から27年になるのを前に、「防災 変わる『常識』」をテーマにした連載が始まりました。震災以降、日本の防災は強化されてきましたが、なお課題も残されています。連載では、これまで防災の世界で常識とされてきたことを疑い、課題を克服しようと模索する取り組みを紹介します。

- ★ 初回は、災害時の避難に支援が必要な高齢者や障害者ら一人一人に向けた「個別避難計画」を、ケアマネジャーや障害者の相談支援専門員など福祉の専門職も加わって作り上げる取り組みです。これまで災害時の対策は自治体の防災担当職員や専門家が考えてきましたが、それだけでは全ての命を救えないという考え方が背景にあるようです。
- ★ 災害が起きるたび、死者が高齢者や障害者に集中する状況はなかなか改善されません。要支援者の心身や生活の状況をよく知る福祉の専門職が個別避難計画作りに参加することは問題解決の一步になります。

社会面 オミクロン 療養どこで 全員入院の見直し進む

新型コロナウイルスの「オミクロン株」による感染急拡大を受け、各都道府県が同株の感染者を「全員入院」させる方針から、宿泊・自宅療養の活用へと転換を急いでいます。病床逼迫を避ける狙いです。ただ、自宅療養では家庭内感染の懸念もあり慎重な対応が求められています。

厚生労働省は当初、全員入院を都道府県に求めていましたが、感染者の急増で5日、自宅・宿泊療養も認める方針を通知しました。都道府県も相次いで方針を転換し、少なくとも半数はすでに全員入院から切り替えたようです。自宅療養者のケアの仕組み作りが急がれます。

他紙と比べて

かつて世間の注目を集め、記事にも取り上げた出来事や人について、当事者らにじっくり話を聞き、当時とその後の人生を描く人気シリーズ「あれから」の19回目を1面と特別面で掲載しています。今回はある時期、＜日本で最も有名な国会議員秘書＞だったムウエテ・ムルアカさん（60）が主人公です。